

「地域」と共に守る「救急医療」

取材協力/ ジャパンメディカルライアンス・海老名総合病院

キャンパス座間の一部返還地における誘致病院事業者に決定した社会医療法人ジャパンメディカルライアンス。同法人の鄭義弘理事長と同法人海老名総合病院の内山喜一郎病院長に話を聞いた。

「必要な時に必要な医療を」への転換が必要に

新たな病院建設に手を挙げた理由は？

鄭理事長 座間市における救急車の市内完結率は20%から30%しかない。逆に海老名、大和、厚木市は70%から80%完結しています。県央の救急医療を守るためにも、何とか座間市の市内完結率を地域の医療機関と協力しながら80%位に上げる必要がある。縁あってこの地で30年間、創業以来救急こそが医療の原点という理念のもと地域医療を守るために努力してきた、我々の使命と考えました。

海老名メディカルサポートセンターが移転？

鄭理事長 全て移転するのではない。移るのは入院に関しては未定だが、基本は救急をしっかりとやること。そして入院をしっかりとみる。座間の療養病棟、回復期リハビリテーション病棟と外来的な一部。座間で不足となった240床と合わせて350床程度を計画している。急性期の病院では病気を治すところまではやるが、そこから在宅、社会復帰まで担えない。高齢化が進むと不足する。ホームヘルスケア事業部を海

老名の別の場所へ移転する。閉鎖ではなく海老名総合とサポートセンターの機能を使い合います。

海老名、座間市を含めた県央の医療の表情は？

内山院長 今の県央の医療圏、海老名、座間、綾瀬、大和、厚木市、清川村、愛川町には80万人の人口がある。しかし公的医療施設は大和市立病院、厚木市立病院のみ。間には公的な病院がなく民間が支えてきた。残念ながら座間市と綾瀬市では救急が完結できず、海老名、厚木、大和市が協力している。そこで私たち

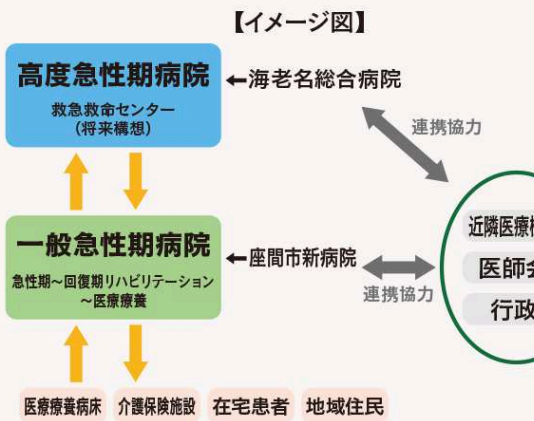
「地域完結」が幸せのカギ

海老名、座間市を含めた県央の医療の表情は？

内山院長 今の県央の医療圏、海老名、座間、綾瀬、大和、厚木市、清川村、愛川町には80万人の人口がある。しかし公的医療施設は大和市立病院、厚木市立病院のみ。間には公的な病院がなく民間が支えてきた。残念ながら座間市と綾瀬市では救急が完結できず、海老名、厚木、大和市が協力している。そこで私たち



鄭理事長(右)と内山院長



あり無視して皆が1カ所に集中したらその病院はパンクする。そうならないうちに重症度が高い「高度急性期医療」を担う病院とそれ以外の「一般急性期医療」は役割を分担する必要があります。海老名総合が目指すのは前者。座間の新病院は後者で、医療が終わった時の療養施設も視野に入れている。私たちは海老名総合と座間の病院が一つの業態として医療・ケアの提供をこの地域で展開したい。私たちがだけでは無理なので、既存の医療機関や介護施設と協力し合ってそれぞれの分野を生かしながら、全体で患者さんを診る。つまり地域完結。個別の病院で完結するのはなく地域で完結する。将来を見据え、市民の方にも「海老名市民だから」「座間市民だから」ではなく、広いエリアで皆がどうやって幸せに過ごせるかを考えてもらいたい。今後「軽傷は座間に」となるかもしれない。しかし不便と感じるのでなく、皆が上手に医療機関を使うことで混乱がなく、安全に医療を受けられる街づくりを目指したい。

2014年は？

鄭理事長 昨年で法人40周年、海老名30周年を迎えた。今年は我々がやってきた医療から次の「新たなステージ」の年ととらえてい

今後の地域医療は？

鄭理事長 社会保障国民会議の報告書の中に「これからは『いつでも、誰でも、何処へでも』という体制から『必要な時に、必要な医療を受けられる体制』への転換が必要」とある。まさにそこで、今まで医療の「フリーアクセス」が保障されていた。今後は「フリーアクセス」を狭めるので



海老名総合病院 海老名メディカルサポートセンター

はなく、やり方、有り方を考える必要がある。そうしないと限られた医療資源を守れないし、質も維持できない。「コスト、クオリティ、アクセスの良さ」この3つを担保して「海老名総合」へは。皆が「高度急性期医療」は質が高くなるのではなく、「スベック」が高度なものです。そう理解して欲しい。内山院長 地域である程度同じ質を持った医療が提供できるようなれば皆がどこへ行っても安心してかかるようになる。一民間病院ではできない一つの市で作り上げるのも難しい。市を超えて医療資源を共有していく方法を取らないといけない。高齢化が進み、治療から支えあう医療にシフトが必要になり、皆で「この先どう在りたいか」考える必要がある。考えることで、病院機能の分化や利用方法が分かると思う。そのためにできるだけ情報発信していきたい。

鄭理事長 若い世代にも是非考えて欲しい。アクセスに関する考えを持たないと、皆がフルスベック・ハイスベックの医療を目指す考えでは医療費が破たんしてしまふ。すると結果若い世代にしわ寄せがくる。今のままでは20年30年後、介護保険も破たんする。現状を知って将来に向けて考えて欲しい。

http://www.jinai.jp

JAPAN MEDICAL ALLIANCE
社会医療法人 ジャパンメディカルライアンス

- ◆海老名総合病院
- ◆海老名メディカルプラザ
- ◆海老名総合病院附属
- ◆海老名メディカルサポートセンター
- ◆介護老人保健施設アゼリア
- ◆ヘルスサポートセンター／◆美容医療センター／◆ホームヘルスケア事業部

コールセンター(予約専用)
☎046(234)6529
平日 8:30~17:00/土 8:30~12:00

海老名駅から
無料シャトルバス運行
海老名駅西口出て右側に停留所あります

い。座間、海老名の皆さまと協力、共存しながら安心できる医療サービスを提供してまいりますのでよろしくお願いたします。
内山院長 海老名市は開発が進み新しいステージに突入。健康を支える医療・